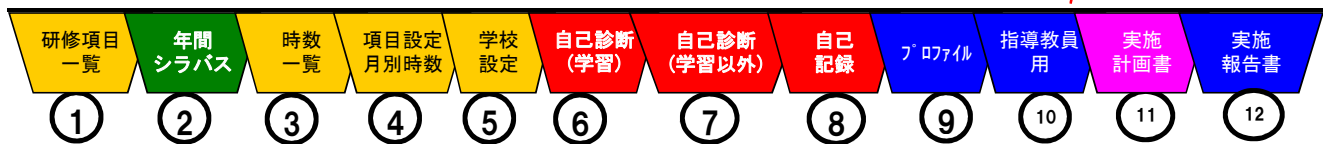


3年次研修支援ファイルの説明です

今後、校内研修を進めるために重要です 必ず確認してください
(シート・シラバス・自己診断)

各シートの説明

各教育委員会等へ提出する書類



① 研修項目一覧 ⇒ 「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」の必修の30の研修項目を表示しています。◎ここで研修項目・内容と番号を確認してください。

② 年間シラバス ⇒ 5月から3月までのモデルプランを設定しています。
4月は、「2年次研修の振り返り」と「3年次研修の目標設定」をします。
◎学校の実態に応じて、研修項目の変更・追加は可能です。

重要: 毎期の入力が必要です
事前に副校長の確認を受け、
研修実施後ごとに入力し期末
には副校長・指導教員に提出
して確認を受けます

③ 時数一覧 ⇒ 期別、領域別に予定時数と実施時数を表示しています。
◎研修時数の管理をします。

④ 項目設定 ⇒ 研修項目の設定状況を表示しています。設定の回数及び未設定の項目が分かります。

月別時数 ⇒ 毎月の研修予定(実施)時数の分布を確認します。予定(実施)状況の偏りがわかります。

⑤ 学校設定 ⇒ 学校独自で設定し、追加した研修内容等をここに表示しています。

⑥ 自己診断(学習) ⇒ 【学習指導力】3回実施する授業研究後にこのシートで自己診断を行います。
◎各項目ごとにA~Dで入力します。

⑦ 自己診断(学習以外) ⇒ 7月と1月にこのシートで自己診断を行います。 ◎各項目ごとにA~Dで入力します。

⑧ 自己記録 ⇒ 7月と1月の自己診断のときに、(学習指導力も含めて)研修の成果記録として入力します。
◎自己の成長や力量の伸びについてコメントを記入します。

⑨ プロファイル ⇒ 学習指導力の3回の自己診断と学習指導力以外の7月と1月の自己診断の結果を一覧で表示します。

⑩ 指導教員用 ⇒ 学習指導力の3回の自己診断と学習指導力以外の7月と1月の自己診断の結果を確認するためのものです。

提出する書類 { ⑪ 実施計画書 ⇒ 5月に【都立学校以外は】区市町村教育委員会・各出張所に提出する
【都立学校は】東京都教職員研修センターに提出する

* 「はじめに」の必要事項を入力すれば自動的に完成

⑫ 実施報告書 ⇒ 2月に【都立学校以外は】区市町村教育委員会・各出張所に提出する
【都立学校は】東京都教職員研修センターに提出する

* 自動的に完成(校外における研修・学校長所見を除く)

※実施見込みで「3月」分は含めておくこと。

各期の年間シラバス 説明と作成方法

*このシラバスシートは5年間の保管

各期の開始前に副校長・指導教員に提出し、確認を受けたらチェックボックスにチェックを入れる（入れると下段に「確認済み」が表示される）

期末に提出しそれぞれ確認印をもらうこと

モデルプランで配布しています。
各校の行事予定等を考慮して、独自の年間シラバスを作成してください。

「研修項目一覧」に示した30項目の研修項目は必修です。

予定時数はここで確認する

- 副校長による事前確認チェック！
副校長確認済み
- 指導教員による事前確認チェック
指導教員確認済み

副校長事後確認 印
指導教員事後確認 印

1. 学習指導に関する研修

月	NO	分類	研修項目	予定時数	主な研修内容 ※必要に応じて関連する内容も取り入れる	実施日 日 校時	実施時数	関係資料	テキスト	サポート (OJT)
5	1	A	第1回授業研究 ①事前協議 +「指導と評価の一体化」	1.0	単元構成と本時案の検討(テーマとの整合性、ねらいの具体性、発問・板書計画、展開の順序、評価内	25	3			
5	2		どの研修項目を実施するか							
6	3		研修項目一覧 NO 1~10から選択				5			
			何月に実施したか							
			学校独自の研修を行う場合は、この欄に「※」印を入れます。また、「サポート」までの欄を直接入力します。							
			研修項目一覧 NO 11~30から選択							
			何校時に実施したか				5			
			実施する校時を数字で！ 例) 5校時の場合は 5 と入力							
			何時間実施したか				1.0			
			1単位時間 ⇒ 1.0 1単位時間と半分30分 ⇒ 1.5 1単位時間の半分 ⇒ 0.5							

入力するのは
1 2 3 4 5 6
色の付いたところだけ

2 はモデルプランで設定済み
(受講者・学校の状況により設定変更できます)

2. 学習指導以外に関する研修

5	16	B	児童虐待への対応	1.0	「児童虐待防止研修セット」を活用して、児童虐待防止に関わる正しい理解と認識を深める	1	5		37	生活指導主任 教育相談担当
研修番号 16 を入力すれば、 分類/研修項目/時数/主な研修内容/関連資料/テキスト/サポートが自動的に表示されます。(ない場合は空欄のまま) (※「4月」は、「2年次の振り返り」と「目標設定」のため別様式になっています。)										
							外			

放課後(週時程外)、長期休業中で実施した場合
「外」と入力

自己診断の方法

説明と作成方法

例

留意点

自己診断は自己の力量を向上させるために行うものです。
 そのため、診断結果については**指導教員に提出し、「適切さ」について話し合ってください。**また、3年間の研修成果を振り返るため、
 ◎3月の**副校長との面談**で診断結果について話し合いをしてください。

**学習指導力
記入例**

学習指導力に関する自己診断

◎2年次の1月の自己診断結果が「C or D」の項目は、3年次も校内でのOJTを生かした改善・向上を図る。

A:十分達成している B:ある程度達成している C:もう少しで達成する D:まだ不足している

他者診断

分類 「教師が身に 付けるべき力」	2年次 到達目標		1月 結果	3年次 到達目標			3年次実施			副校長 3回目 授業研究後
	単元の教材・題材について分析・解釈することができる (専門的知識・技能)	ねらいに基づいた学習指導案を作成することができる (授業構築力)		3年次 到達目標	授業力 6要素	学習指導案の視点	1回目 授業研究後	2回目 授業研究後	3回目 授業研究後	
授業を デザインする力 (学習指導の計画)	単元の教材・題材について分析・解釈することができる (専門的知識・技能)	ねらいに基づいた学習指導案を作成することができる (授業構築力)	A	①児童・生徒に基礎的・基本的な力を定着させる上での課題を分析し、②その解決に向けた単元構成や授業展開の工夫を行うことができる。	教材解釈・開発	単元の目標 単元観、教材観	B	A	A	O
ねらいに沿って 学習を進める力 (ねらいと展開)	単元の基礎的・基本的な力を定着させることができる (教科等の基礎学力・言語活動の充実)		C	①生徒の学習意欲を高める授業を展開することができる。	指導技術 児童生徒理解	指導にあたる				
生徒の興味を 引き出し個に応じた 指導をする力	授業規律をもち主体的な学習活動を工夫することができる (規律)		A	①先行研究や文献、他の教員の実践事例などから積極的に情報収集し、②生徒の学習意欲を高める授業を展開することができる。	指導技術 児童生徒理解	指導にあたる				
主体的な学習を 促すことができる力 (実践的な指導技術)	場面や状況にに応じた指導技術を生かすことができる (発問・指示・説明・板書等)		B	①学習指導計画に即した評価計画を作成・実行するとともに、②設定した評価規準等の課題を分析して改善策を立てることができる。	指導と評価(作成)	単元の評価規準 本時の評価方法	C	C	B	O
学習状況を 適切に評価し 授業を進める力 (学習状況の評価)	適切な場面と方法で学習状況を評価することができる (評価能力)	児童・生徒の学習状況に応じて授業を展開することができる (実態把握)	D	①生徒や他の教員による授業評価を活用して自己の課題を明らかにし、②具体的な改善策を立てることができる。	指導と評価(改善)	授業観察の視点 評価規準	B	B	A	O
授業を振り返り 改善する力 (授業の改善)	児童・生徒の学習課題の解決策を立てることができる (課題解決力)	授業改善のPDCAを生かすことができる (授業改善)	A							
			B							

2年次研修の1月の
診断結果をA~Dで入力する

各到達目標を
確認する

3回の授業研究後にそれぞれ
診断結果をA~Dで入力する

【他者診断の入力手順】
 ①「自己診断シート」をプリントアウトし3月の副校長との面談を受ける。
 ②副校長は、向上が認められると判断できる項目「3つ」を必ず選び出し、プリントアウトされた「自己診断シート」に記入して3年次教員に渡す。
 ③3年次教員は、評価された項目について、プルダウンメニューから「O」を入力する。

「年間シラバスの「4月」のシートで、「2年次研修において見出した自己の課題」の中で「学習指導力」に入力すると自動的に反映される

【個人設定到達目標】		自己 評価
※4月当初に記入した「今年度の私の到達目標（学習指導力）」が反映される		

生活・進路指導力等
記入例

A : 十分達成している
B : ある程度達成している
C : もう少して達成する
D : まだ不足している

B. 生活指導力・進路指導力に関する自己診断

分類 教師が身に付けるべき力	到達目標 (基本的な行動指針)	取り組みの具体例 ●指導教員から指摘・助言されたことも含む	主な視点	7月末	1月末	副校長 (3月)
生徒と良好な関係を構築する力 (生徒との関係づくり)	①他の教職員と積極的に情報を共有しながら多面的な生徒理解に努め、②生徒の特徴や状況に応じて組織的な指導を行うことができる。	・日常生活の中で起きる様々な出来事について、進んで情報共有を図ることができる ・学年などの組織力を活かして、生徒の特徴や場面に応じた指導ができる	他者理解、自己意識			○
生徒の思いを理解し適切に指導する力 (生活指導)	①生徒の行動や人間関係を観察し自校の潜在的な課題を把握し、②学年主任や生活指導主任等と連携して対応策や改善策を立案できる	・生徒同士の人間関係の観察や多面的な情報収集から課題を把握することができる ・学年会や分掌部会で、気付いた課題を話題にして対応策を立案できる	③ 課題の視点 自己診断に関連の視点です	B		
安全・危機管理に努める力 (安全指導と危機管理)	①学校安全計画における組織上の自己の役割を把握するとともに、②学級活動や学校行事、校務分掌等を通して具体的に安全教育を実践することができる。	・安全計画の策定や実施を踏まえ、安全管理上課題を把握し、対応策を立案できる ・避難訓練や校外学習などを実施することができる	④ 自己診断の視点 A～Dで自己診断を行う 留意点 Bが基準ライン			
健全な心身を育成する力 (心身の健全育成)	①教育活動全体を通して生徒が主体的に取り組める場や機会を提供し、②生徒の自己指導能力の育成を図ることができる。	・学級活動や教科指導等で、発達段階に応じて生徒自身が判断・行動する環境を整えることができる ・主体的活動を通して生徒の自己肯定感を高めさせ、省察を行わせることができる	⑤ 自己診断の視点 Aの判断 「他者からも取り組みが十分認められている状態」 ・当該項目の内容について周囲に好ましい影響を与える取り組みがみられる 等			
生徒の個性・社会性を育む力 (個性・能力)	「年間シラバス」の「4月」のシートで、「今年度の私の到達目標」のうち「生活指導力・進路指導力」を入力すると自動的に反映される	・自己の将来設計と現在の学びが密接につながることが生徒に意識させることができる ・学校行事等の体験活動を通して社会と自分との結びつきを感じ取らせることができる	生活自立			
【個人設定到達目標】 ※4月初めに記入した「今年度の私の到達目標（生活指導・進路指導力）」が反映される					自己診断（1月）	

自己診断の流れ

前年度3月…3年次の目標設定
*副校長との面談

4月…2年次研修の振り返り
3年次到達目標の確認

年間シラバスに基づく校内研修

5～7月 授業研究1回目
(学習指導自己診断)

7月…第1回 自己診断
(学習指導以外)

診断結果について指導教員と相談
個別課題を踏まえた研修の計画づくり
<8月～12月>

8～12月 改善への取組
9～12月 授業研究2回目
(学習指導自己診断)

1月…第2回 自己診断
(学習指導以外)

診断結果について指導教員と相談
個別課題を踏まえた研修の計画づくり
<2月～3月>

1～2月 授業研究3回目
(学習指導自己診断)

2～3月 改善・まとめ
今後の目標設定
*副校長との面談

診断結果について副校長と確認・相談
若手研修修了後の研鑽について構想する

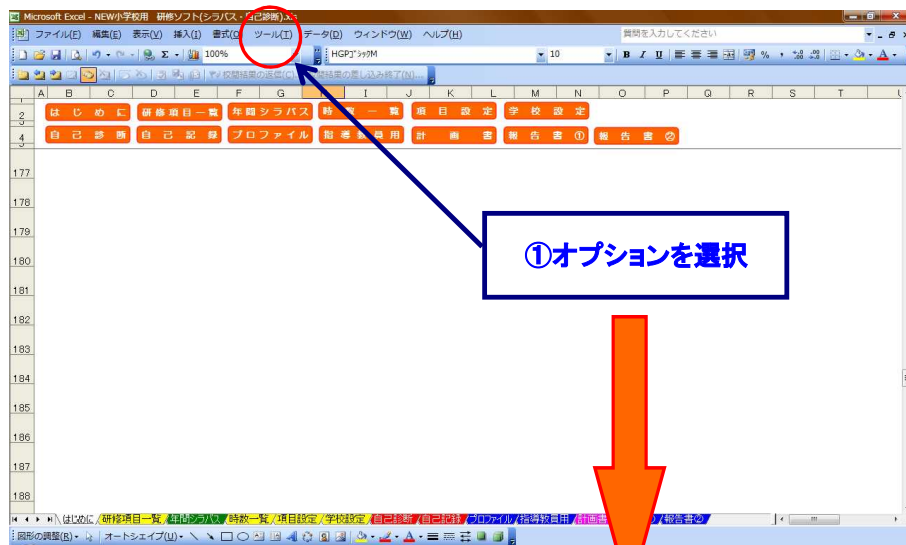
到達目標の設定
年間シラバスの確認

若手教員育成研修の修了

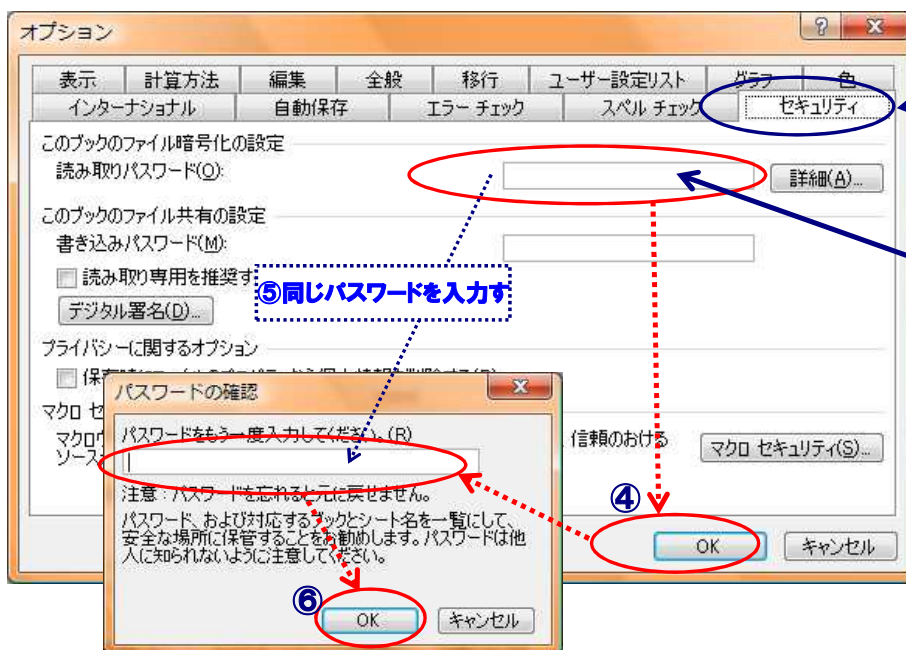
パスワードの設定

個人情報を含むので、パスワードをかけて管理しましょう。

※以下は、エクセル2003の例です。お使いのバージョンに応じて設定方法が異なります。



① オプションを選択



② クリック

③ パスワードを入れる

* 忘れないこと
* 指導教員と共有すること

参考/学校の電話番号など

⑤ 同じパスワードを入力す

④

⑥